

ヒューマンズ

interview

〈JR田端駅(東京都)近くの商店街の一角に、20席ほどの小さな映画館がある。平塚さんは「目や耳の不自由な方にも映画の感動を届けたい」との思いで日本初のユニバーサルシアターを設立した〉

——ユニバーサルシアターとは？

映画を見る時、目の不自由な方は、役者の表情や動作、景色などが想像しづらいですよね。当館では、全席にあるイヤホンジャックから「音声ガイド」を聞けます。また、耳の不自由な方は、どんな音が出て、役者が何を話しているのか、分かりません。そこで、スクリーンにセリフ・効果音などを説明する「バリアフリー字幕」を表示しています。メジャーな作品には公式の音声ガイドと字幕が付いています。それは全体の1割ほど。それ以外の作



ユニバーサルシアター 館長

平塚 千穂子さん

品の音声ガイドや字幕は、ボランティアにも協力してもらい、私たちの手でつくっています。

——設備も充実していますね。

スピーカーなどの音響設備は最高水準のものにしました。目の不自由な方だけでなく、皆さんから好評です。ほかにも、場内後方には3台分の車いすスペース。個室の「親子鑑賞室」

1972年生まれ。2001年にバリアフリー映画鑑賞推進団体「シティ・ライツ」を設立。16年に開館した日本初のユニバーサルシアター「シネマ・チュアキ・タバタ」代表を務める。著書に『夢のユニバーサルシアター』。

誰もが楽しめる映画館。

一つ一つの工夫が

皆のためになる。

では、小さなお子さん連れの方や、感覚が過敏な方も安心して観賞できます。

——配慮がとてもこまやかです。

実際に動いてみて気付くことの方が多いです。以前、目の不自由なスタッフから「このシーンは柔らかい雰囲気だから、音声ガイドも「かきくけこ」ではなく、「まみむめも」を使ったら柔らかい言葉で表現して

ほしい」と言われたんです。音に対する鋭敏さ、豊かさに驚きました。

また、字幕を増やすと画面が見づらくなるのではと心配したのですが、思わぬ反応が。ドキュメンタリー映画は録音状況が良くないものが少なくありませんし、方言が入っている作品なども字幕があると分かりやすい。視力・聴力が衰えてきたという高齢の方からも感謝されています。

——いろんな人に楽しんでもらいたいですね。

細かな工夫の一つ一つが、皆のためになっているのだと思います。ユニバーサルな社会は、一人一人が生きていること自体を大事にする社会。違う個性を持つそれぞれが生きやすくなることだと思っています。

「誰もが楽しめる映画館」を通して、そんな世の中になると思います。(安)